

海上自衛隊衛生科員から、フィジー&アメリカ留学、
NCGMセンター病院救命救急センターを経て、
国際医療協力局で活躍する看護師

みやざき かずき
宮崎 一起

国際医療協力局
連携協力部 展開支援課
看護師



★略 歴

- 2001 海上自衛隊入隊。
- 2005 衛生科員。艦艇医務室や衛生隊で勤務。
- 2010 自衛隊退職。フィジー、アメリカへ留学。
- 2012 国立国際医療研究センター入職。救命救急センター看護師。
- 2014 就業しながら大学卒業（看護学士）。
- 2016 国際医療協力局へ異動。
- 2017 就業しながら長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科(MPH)在学中。

★現在の主な担当業務

ミャンマー国の輸血と造血幹細胞移植の安全性向上事業
医療関連感染管理指導者養成研修（外国人課題別研修）
疾病対策チーム／医療の質改善チーム

—————宮崎さんが、看護師を目指したきっかけを教えてください。

もともと、看護師を目指していたわけではありませんでした。

高校を卒業して、海上自衛隊に入隊しました。小中高と水泳の選手だったので体力には自信があり、人命救助の仕事に興味があったからです。医療資格が必要な「メディック」という救助ヘリコプターの搭乗員の仕事に就きたくて、2年間の衛生員養成課程（准看護師学校）に進んだのがきっかけでした。

修了後、最初に護衛艦の医務室に配属されました。護衛艦の衛生科員としての仕事は、乗員の健康教育、艦内防疫、傷病者への対応・応急処置・急患搬送などさまざまで、医療・看護について、より広く深く学ぶ必要性を感じると同時に意欲も高まりました。その頃、先の進路希望が、メディックから看護師に変わりました。部内選抜を受験し、看護師進学過程に進み、看護師免許取得後も衛生隊などで勤務しました。

—————国際医療協りに興味を持ったのは、看護師になってからですか。

艦艇勤務時代に長期の海外派遣に行き、視野が広がったことが始まりです。

漠然と、将来は世界をまたにかけた仕事ができればいいなというぐらいの気持ちでした。その頃、英語の勉強も趣味のように始めて、楽しくて没頭していきました。

そして、外の世界で自分の可能性に挑戦してみたいと決意して、自衛隊退職後、留学し、帰国後に、将来国際医療協りに携われそうな病院を検索したところ、NCGMがヒットしました。

NCGMセンター病院に入職後、国際医療協力局が主催している、各種講座や研修への参加を通して「国際医療協力を本気でやっていきたい」という心が決まりました。

宮崎さんにとって、海上自衛隊での経験はどのように生きていますか。

今の自分の基盤となっていて、仕事にも普段の生活にも、物事
の考え方ですとか、全てに生きています。

海上自衛隊には9年間いましたが、まず自衛官としての躰、社会人
としての常識、普通では経験できないこと、たとえば艦艇勤務、
海外派遣などを経験して、壁にぶつかる様な経験もありましたが、
本当に多くのことを学び、成長させてもらいました。

今の仕事の国際医療協力にも通じることは、環境に適応する能力
とコミュニケーション力です。特にコミュニケーション力について
は、艦艇衛生員時代、当時の上司からたくさんのことを学びました。
艦艇医務室業務は、200人程の乗員全ての顔と名前を一致させて、
健康状態を把握し、何よりも信頼関係を築けていなければ良い仕事
はできません。艦艇というコミュニティの中で、一乗員として認め
られなければ、乗員は医務室を受診してくれません。当時若造
だった自分が、屈強の船乗りたちに対して健康教育などできるわけ
がなく、いろいろと苦労した思い出があります。信頼関係を築くために、まずは自分がオープンになって、とにかく
フットワーク軽く行動して、勇気を持って相手と現場を知ることから始めました。

その経験は、現在、開発途上国で仕事をやる際に、まずは相手の文化や習慣を把握し、関係性を築くよう努めること
と通じていて、私の仕事の基盤になっていると思っています。



今も洋上で活躍している海上自衛隊衛生の同期と

自衛隊を退職してから、海外留学をしていますね。

まずフィジーに半年間、ホームステイをして毎日語学学校に通い、
英語の勉強をしました。フィジーを最初の留学先に選んだのは、
南国を満喫したかったという気持ちもあり、小旅行やサーフィン
など楽しみました。ただ、勉強については妥協せずに取り組みまし
た。「勉強ばかりしている奴」みたいな一面もあったかもしれませ
ん。安定した職業をやめて、漠然とした将来のために決意して
留学しているので、そこはぶれませんでした。

フィジーの人はホスピタリティに溢れていました。私が近所を散
歩していると笑顔で声をかけ、自宅に招き、お茶や食事を振る
舞ってくれる。そんなこともよくありました。そのような雰囲気
がとても居心地良かったですし、異文化理解に繋がる経験でした。
その後、もともと決めていたアメリカに留学しました。

医療英語を勉強し、せっかくならアメリカの看護師資格を取得しようと思い、通常の英語学校以外に、NCLEX-
RNレビューコースという国家試験対策コースにも通いました。その他、病院でのボランティア活動もやりました。
アメリカでの生活で、度胸、適度な大胆さ、行動力が身についたと思います。

留学中に将来のキャリアを考え、自分はアメリカで看護師の資格を取って働きたいのか、純粹に海外で働きたい
のかと自己分析したところ、後者の方でした。そこで、国際医療協力のキャリアを見据えながら、まずは看護師とし
て病院の臨床経験を積もうと考え、一年後に帰国し、NCGMの採用試験を受け、入職しました



とても気さくなフィジーの人たちと

病院での看護師の勤務の後、国際医療協力局に入職したのですね。

はい。NCGM内での異動でした。異動前は、救命救急センター看護師として4年間勤務しました。救急外来での超急性期の対応から病棟での集中治療、そして回復期までの様々な疾患の患者さんの看護を経験することができました。

1年目は臨床の仕事に慣れることで余裕はなかったのですが、2年目から、国際医療協力局が主催する国際保健基礎講座を、勤務を調整して毎回受講し、3年目で国際保健医療協力実務体験研修、4年目で看護職海外研修（ベトナム）を受けることができました。これらの研修を通して「自分は将来、国際医療協力の世界で仕事をしたい」と、改めて心が決まりました。

いつか国際医療協力局に行ければと考え、希望はしていましたが、思っていたよりも早く声をかけていただきました。そのための幹部任用試験にも合格しました。国際保健について知識も経験も不十分で、正直国際医療協力局での仕事は時期尚早ではないかとも思いましたが、このチャンスを生かそう、これまでの自分の経験がより活かせる分野だと思い、二つ返事で受けました。



救命救急センターの新人教育リーダーの務めを終えて
(最前列の左から二人目が宮崎看護師)

結婚は、いつだったのですか？

NCGMに入職して4年目の2015年です。妻とは同郷で、NCGMに入職した頃から付き合っていました。国際協力を仕事にすることを考えると、いろいろな経験やスキルが必要で、私もそれを身に付けるべく、休日などは何かしら勉強会などに参加して、忙しく過ごしていました。結婚は落ち着いてからと思っていたこともありましたが、結局やりたいことは盛りだくさんで、落ち着くことはないなと気づきました。妻は当時から、私のそのような行動に理解を示してくれ、サポートしてくれていたため、この人だったらこれからのキャリアも一緒に歩んでくれると思い、結婚しました。

宮崎さんの今後の展望、いま抱いている夢は、なんですか。

直近で言えば、まずは在学中の大学院でしっかり学び、卒業することです。仕事との両立は正直大変ですが、学びが日々の仕事に活かせる環境ですので、とても充実感があります。

国際医療協力局での仕事については、専門的知識を深めつつ経験を積むこと。そして将来、それが自分の専門分野と言えるようにしたいと思っています。

5年先では、その専門的な知識と経験を持って、海外で専門家として自分の強みとして発揮していきたいですね。

10年先では、自分は国際医療協力の仕事していると、根拠のある自信を持って言えるようになっていきたいです。この仕事をやり遂げた！とすぐに2つ、3つくらいは答えられる姿が理想です。そして、一緒に仕事をした国内外の人たちと、笑顔で語り合えるようになっていたら良いですね。

さらにその先は、具体的なデザインは描けていませんが、何かにチャレンジをしていると思います。理想は、現場と管理・政策の両方の視点を持ち、リーダーシップを発揮して、国内外の人々の生活や健康に貢献できるような仕事をしたいです。



リベリアの病院で院内感染の研修フォローアップ

——最後に、これから国際医療協力の世界を目指そうとしている人に一言お願いします。

私のキャリアは、長く助走をとって回り道をしてきましたし、今も助走だと思っています。踏切板の手前くらいまでは進んだかもしれませんが、ただ振り返ると、全てのことが伏線となって、いまに繋がっているように思います。当時は嫌だなと思っていたことも、今に活着していると実感しますし、ベタですが、“大人”が言う「全ての経験は無駄はない」という意味が、今は良く分かるつもりです。

国際医療協力を仕事にするには、経験や勉強が必要なのは事実ですので、想いが強い人ほど焦りや迷いを抱えるかもしれません。私からお伝えできるとすれば、その時その時、目の前の経験を大事にして、必要だと思ったら少し大胆に行動し、真剣に取り組めば、結果として自分にとって良い方向に進むのではないかと思います。仕事も勉強も、まずは決意と体力ですよね。そして興味と行動力があれば継続できるし、日々着実に目標に向かって前進していけるはずですので、どうぞ“今”を大事にして下さい。体育会系なので精神論のようなコメントですみません。少しでも皆様のご参考になれば幸いです。

——ありがとうございました。

